

私の車いす生活 ～中部ろうさい病院を退院して～ リハビリテーション科・社会生活講座より



復学への道のり ～新しい学校生活から就職に至るまで～

服部 保 37歳・事務職員・頸髄損傷

**入院までの経緯**

受傷前は、スポーツが得意でとても活発な生活をしていました。中学の部活は野球部のピッチャー。3年生で部活を引退し、夏休みになり午後からは毎日のように中学校のプールに通っていました。そして、7月31日に事故は起きました。いつものようにプールに飛び込んだ瞬間、体の中から「ドン！」と何かが聞こえたと思ったら、左手以外の自由が利かなく、息が吸えなくなりそのまま意識がなくなって沈んで行ってしまいました。友達にプールから助け出してもらえ、人工呼吸などで意識が戻り、そのまま救急車で病院へ運ばれました。第6頸椎粉碎骨折による頸髄損傷で、その日のうちに腰の骨を削って手術が行われました。

リハビリ

それからは寝たきりの生活でした。左腕は動きましたが指は動かず、右手は上に上げると顔の上に落ちてくる状態でした。リハビリを開始してなんとか右手は落ちてこないぐらい回復し、指も少し動くようになりました。

2ヶ月後にリハビリのため中部ろうさい病院に転院しました。リハビリは起立性低血圧を改善するところから始めました。2ヶ月後ぐらいからやっと自走の車いすに乗って自分で漕げるようになりました。腕にも力がつき、やはりリハビリはやればやっただけの力がつくと思いました。最初は作業療法が1時間、理学療法が1時間ぐらいでしたが、退院する頃は自主訓練もあわせて5時間ぐらいやっていました。

復学と進学、そして就職へ

高校には行きたかったので平成3年8月に退院をしました。3月に中学は卒業していたのですが、2学期からの勉強を何もしていなかったので聴講生という形で午前中だけ中学に行くことになりました。通っていた中学校は最初から身障者用のトイレも作っており、車を降りてから教室に行く

にもバリアフリーだったので特に不便なことはありませんでした。ただ、普通の机では狭かったので、先生が広めの机を作ってくれました。



渡り廊下もバリアフリーです

3学期になり高校受験の話になりました。先生は養護学校を勧めましたが、どうしても普通の高校に行きたかったので通える範囲の高校に聞いてもらいました。やはり車いすということでもこの高校も受け入れてもらえず、唯一中津高校が僕と同じ時期に事故をして車いすになった生徒がいて復学していたので、全日制は無理でしたが同じ教室を使えるということで定時制を受験することができ、入学することができました。

定時制には知ってる子が一人もいなく不安がいっぱいありましたが、同級生は2階の授業のときとかはみんなで快く手伝ってくれホントにありがたかったです。3年生になり車の免許証を取ることができました。そのときは午前中病院にリハビリに行き、昼からは教習所に行き、夜は学校に行くという生活を1ヶ月半ぐらい続けました。かなり大変でしたがなんとか耐えました。自分で運転できるようになりかなり自信がついたと思います。秋には母親同伴でしたが九州に修学旅行にも行けました。褥瘡等いろいろ心配もしましたが無事に行くことができました。

高校を卒業するときは4年間で1日休んだだけで卒業できました。それで平成8年4月に地元の福祉センター内の社会福祉協議会に事務員として就職することができました。

メッセージ

何でも「やればできる」と思ってやればできるようになると思うので、あきらめずに頑張ることは大切だと思いますので、いろいろなことにチャレンジして頑張ってください。

*** リハビリテーション科・社会生活講座とは ***

入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらおうピアサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。